

浄土 monthly JŌDO

2023 December
vol.89
no.979

昭和10年5月29日創刊 浄土宗 機関誌 浄土

法 然 上 人 讃 仰 会

令和5年

通巻979号

浄土

讃

ぶつぶつ放談

日蓮宗 その3 灘上智生 高松孝行

漫画

浄土宗のお祖師様 四祖良暁 ぐんじまん

林海庵・開教奮闘記15

国際開教 笠原泰淳

法然上人讃仰会

浄土

2023/12月号 目次

近現代浄土宗史 第4回 大教院と浄土宗①	吉田淳雄	2
「浄土」掲示板 副住職の意識アンケート募集	編集部	9
ぶつぶつ放談 他宗を知ろう「日蓮宗」その3		
	高松孝行 灘上智生	10
「選択本願念仏集」講義余話6回 回向と不回向	阿満利麿	18
寺々刻々⑤ 宗教法人格の売買	鶴飼秀徳	22
林海庵・開教奮闘記⑮ 国際開教(三)	笠原泰淳	26
漫画「浄土宗のお祖師様」四祖良暁上人 第4話	ぐんじまん	31
あなたもお寺のCIO⑱ デジタルの語源と意味	小路竜嗣	34
微風吹動 豊かな一味	工藤量導	38
みんなの境内「われインドを愛す」	佐藤良文	42
「昭和 街場のはやり歌」	佐山哲郎	43
原稿募集企画 48字でつづる法然上人	編集部	44
850年1000号記念企画 写仏シリーズ		46
編集後記		48
心に響く言葉⑧	長谷川岱潤	表2



表紙題字＝中村康隆元浄土門主

表紙絵＝貞林院瑞正寺二十五世 林錦洞「聲」金文文字

アートディレクション＝近藤十四郎

国際開教(三)

開教奮闘記

林海庵開山上人

笠原泰淳



かさはら たいじゅん
昭和三十三年東京生まれ。慶応大学経済学部卒。
日本通運(株)に入社、八年勤務し浄土宗東京
教区貞源寺の故藤木芳清師に師事。佛教大学に
学び、浄土宗僧階取得。東京教区心光院に約十
年勤務。平成十四年「林海庵」を設立。翌年、
同寺が浄土宗寺院として承認され住職となる。
現在、浄土宗開教振興協会副理事長。

前回述べたように、海外の方々は先祖供養を求めて浄土宗に惹かれるわけではない。彼らの目標は、自分自身の浄土往生であり、覚りなのだ。

彼らの間でしばしば話題になるのが、「一念か多念か」、「自力の念仏か他力の念仏か」、「諸行は必要か必要でないか」、「日課は何回しているか」、「三心をどう捉えたらよいか」といったようなことだ。国内の檀信徒がふつう抱く関心とはまったく異なっている。さながら八百年前、宗祖や二祖の時代に旅したような錯覚におちいる。

とにかく質問を受けることが多い。彼らは質疑応答を繰り返しながら、自分の考えや信仰を深めてゆくようだ。一つの質問に答えると、その答えに対してさらに三つくらいの質問が返ってくる。

質問の例を挙げよう。

「もし阿弥陀仏の光明が十方世界を障碍なく包み、輪廻の世界をすべて摂取して下さるのなら、阿弥陀さまは一切に内在し、全知かつ普遍の存在だと

いってよいのでしょうか。」

質問者はキリスト教の神概念を基準にして、阿弥陀仏をどう捉えたらよいか模索している。欧米にはこのような方がとても多い。

阿弥陀仏は諸仏の中の一仏であり、もとは一人の国王であった。万物の創造主ではない。根本的にキリスト教の神とは異なっている。だが、私たちは念仏体験の中で、ある種の普遍性を感じることもある―そのように答えた。

「私が最も困惑しているのは、浄土宗と浄土真宗の違いについてです。これは日本では小さな違いかも知れません。西洋におけるプロテスタントとカトリックの違いほどではないでしょう。

両者の相違点を教えて頂けますか。」

わが国の浄土系宗派の中で、海外において最も教線を拡大しているのは浄土真宗本願寺派である。本願寺派の寺院ないし布教拠点の数は、北米五十九(浄土宗は二)、ハワイ三十一(浄土宗十三)、

カナダ十二(浄土宗ゼロ)、南米三十五か寺(浄土宗四)、ヨーロッパ五(浄土宗一)、台湾二(浄土宗ゼロ)、オーストラリア一(浄土宗一)などである(本願寺派ウェブサイトより)。このように海外では、日本の浄土教といえは、親鸞聖人とその教えがもつとも知られている。特に『歎異抄』の人氣たるや相当なものである。だが『歎異抄』には、

「親鸞におきてはただ、『念仏して弥陀に助けられまいらすべし』と、よき人(法然上人)の仰せを被りて信ずるほかに、別の子細なきなり」

とある。かの親鸞聖人を導いた法然上人という方は一体どのような方なのか。実際にはどのような教えを説いておられるのか。この関心から浄土宗に興味を持つ方も多い。

真宗の立場からすれば、法然上人の教えを最も正しく継承されたお弟子は親鸞聖人、ということになる。われわれ浄土宗からすればそれは違う。

とりわけ気になるのは、海外の真宗の僧侶や信者の方々が、

「信心によって往生が定まる。」
と主張するところである。

読者もご存知のように、法然上人も『一紙小消息』の中で「本願に乗ずることは信心の深きによるべし」と信心を強調しておられる。だが、同じ『小消息』に「行は一念十念なお虚しからずと信じて無間に修すべし」とある。信心には、あくまでもお念仏の継続が前提としてあるのだ。

真宗の方々がお念仏の実践を二義的なものと考へ、なおかつ「われわれは法然上人の教えを正しく継承している」と主張されるならば、それは看過できないであろう。

檀家制度を大枠とする国内であれば、宗派による棲み分けがある。(良くも悪しくもではあるが。)宗派による教えの違いが正面からぶつかるとはあまりない。だが海外の方々からすると、歴史的

経緯はともかく宗派を並列に並べ、それらを比較して違いを知ることがそれぞれの宗派を理解することなのだ。

親鸞聖人とその教えから浄土教に入門した方々に対して、法然上人の魅力をどのように伝えてゆけばよいのか。せっかく浄土宗に関心を寄せて下さる彼らのニーズにどう応えるのか。どのように彼らの念仏実践を励ましてゆくのか。難問である。

だが、メールは何通も来る。浅学菲才の身を嘆いている暇はない。ひとつひとつの質問に迷い迷い答えながら、しばらくすると浄土宗と真宗の違いをどう理解するかというテーマについて自分なりの考えがまとまってきた。林海庵のウェブサイトに、私見であるが拙稿を載せた。内容についてはここでは割愛するが、今は同様の質問を受けた場合、ウェブサイトをご覧いただくようにしている。

一方、国内の檀信徒から受けるのと同じような質問も頂く。

「経済的困難を解決するためにお念仏を称えても良いですか。実は、お金に困っている友人がいます。彼女とその息子を助けるためにお念仏を称えても良いでしょうか。」

また、次のような質問もあった。アメリカの方からだ。

「ペットの犬や猫の葬儀を依頼されたことがありますか。仏教ではこれをどう考えますか。」

質問ばかりでなく、実際に海外から愛犬の供養を依頼されたこともある。犬の写真を送ってもらい、位牌を用意して本堂で読経回向した。法要の様子を写真で撮り、今度はそれを返送する。たいへん喜ばれた。洋の東西を問わず、ペットは家族同然の存在になっている。そのペットを喪失した悲しみを癒すために、ペット供養に関心を持つ方もいるのだ。

先の質問にはそれぞれこう答えた。

「もしそのご友人自身が浄土信仰をもって、みず

からお念仏を称えるならば、阿弥陀さまがその方の念仏生活をお守りくださるでしょう。

しかしその場合も、阿弥陀さまが彼女のお金の問題にまで関心を持って下さるかどうかは分かりません。なぜなら世間的執着からの解脱が仏教徒の最終目標であつて、お金の必要は一時的なものだからです。

彼女の浄土信仰と念仏実践の結果、幸いにも経済的な安定がもたらされるかも知れません。が、最初からそれを目標にしてはいけません。

しかし一番の近道は、阿弥陀さまに頼らずに、あなたが直接その友人の経済的自立を支援することではないでしょうか。私ならそうします。

私の答えが阿弥陀さまの御心になつていことを願います。南無阿弥陀仏」

次の質問の答え。

「私はペットの葬儀を勤めたことはありませんが、犬の納骨式を行なつたことはありません。

こうした動物供養は、近年日本で広く行われています。それは社会的需要に応えるものであり、また同時に寺院の収入源にもなっています。

浄土宗の所依の經典『無量寿経』では、お釈迦さまが次のように言われています。

『もし地獄・餓鬼・畜生といった三つの悪しき世界で苦しんでいる者が、この(阿弥陀仏の)光明を目にしたならば、みなやすらぎを得て、もう二度と悩み苦しむことがない。そしてそれぞれの世界での寿命を終えれば、阿弥陀仏の光明の力によつて悪しき苦しみの世界から解放されるのである。』
また動物供養を行うとき、私たちは次のような偈文をとなえます。

『もし動物たちがいて、阿弥陀さまの御名を聞くならば、永遠に三悪道を離れ、必ずや悟りに至るだろう』

このような内容を、苦勞して辞書を引き引きメー
ルで返した。